

広告原案

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、子どもにもマスクを付けさせ、ワクチンを打たせる。この対策は今後も必要なのだろうか？当初は「未知のウイルス」と恐れられた新型コロナも、この2年間に世界中で研究が進み「既知のウイルス」になりつつあり、様々なデータも出揃ってきた。その研究結果や厚生労働省のホームページに掲載されている最新データを元にした分析と見解を、専門家（井上正康 大阪市立大学名誉教授）に訊いた。

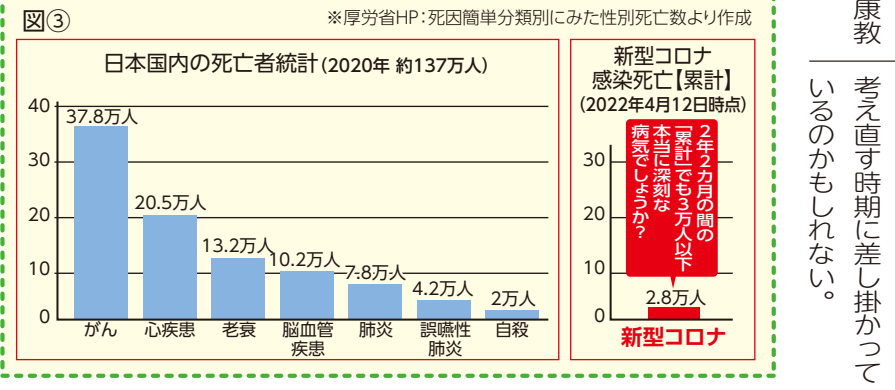
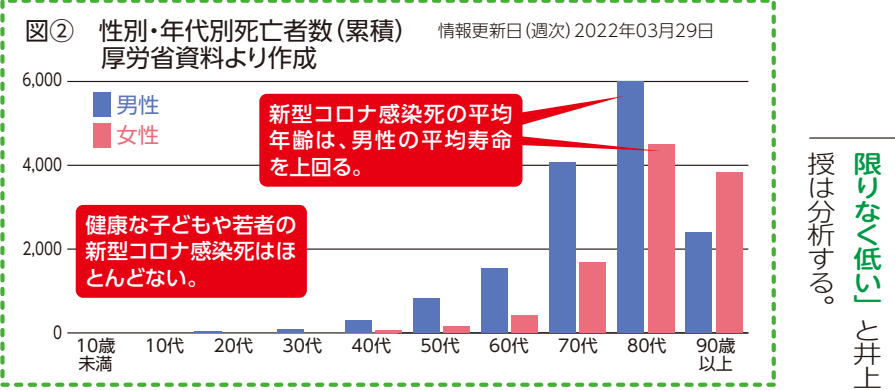
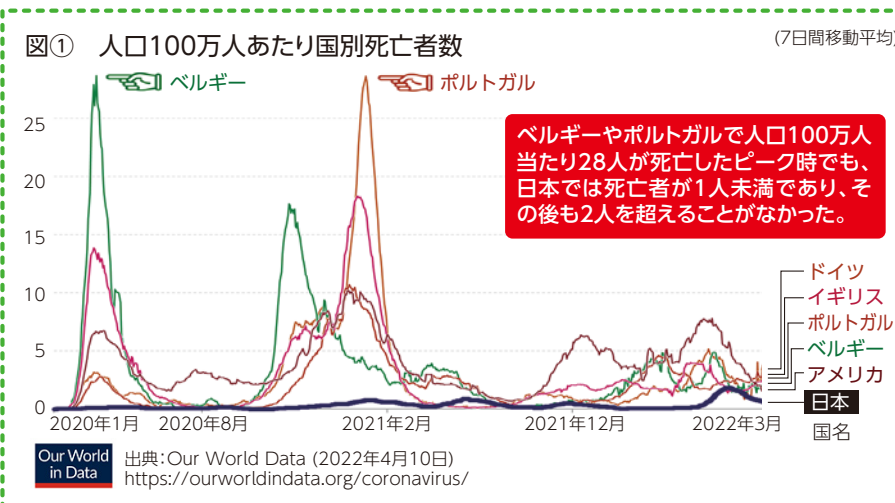
厚労省ホームページから考えよう

# 子どものマスクとワクチン、今後も必要？

## 感染予防はいつまで？

子どものマスクやワクチンを始め、これまでに行ってきた様々な感染予防は、今後も必要なのだろうか？当初から一貫した見解を示し続けてきた井上正康教授は、次のように語る。「欧米諸国では被害が大きかった新型コロナも、図①のように日本では小さな被害で済んでいます。被害の度合いに大きな差が生まれたのは、日本人が病原性の低い初期の新型コロナ株に早期に感染していたことや、免

疫の特性が民族によって異なることに起因しています。この基本的な免疫学的事実を、今後の感染予防に活かすべきです。」



70代以上の死亡者が多そうに見えるが、日本では毎年140万人前後(1日平均3800人)が亡くなっている。新型コロナの感染死2.8万人(累計)は、その2%に過ぎない。(図③)

仮に、今後出現する変異株の毒性が強くなり、体の丈夫な若年層でも重症化する場合は、高齢者を含めて多くの被害が出る可能性がある。そのような時には、社会・経済活動を自粛して「国民全体で警戒する必要がある」とも井上正康教授は分析する。

「ウイルスは変異を繰り返すたびに感染力が強くなるが、私たちの免疫力も強化されるため毒性は相対的に弱まっていき、重症化しにくくなり、そのための既往症や基礎疾患のある高齢者を中心に警戒すれば十分であり、これまでに十分に社会全体で過剰に警戒する必要はありません。」

「病気になる人は悪い人じゃない」とは悪い人じゃない。日本人にとっての新型コロナの毒性は、上の図①②で示した通りだ。しかし現在、新型コロナは指定感染症2類以上(結核・SARSやエボラ・ペストと同等)に扱われている。そのためPCR検査でひとたび「陽性」と判定されると、子どもの学校が「休校」になったり、同僚が「濃厚接触者」として扱われたりして、周囲に迷惑を掛けられる。日本では新型コロナそのものよりも、自分自身が「世間の迷惑者」になってしまうことを恐れている人が多い。

「病気になる人は悪い人じゃない」とは悪い人じゃない。日本人にとっての新型コロナの毒性は、上の図①②で示した通りだ。しかし現在、新型コロナは指定感染症2類以上(結核・SARSやエボラ・ペストと同等)に扱われている。そのためPCR検査でひとたび「陽性」と判定されると、子どもの学校が「休校」になったり、同僚が「濃厚接触者」として扱われたりして、周囲に迷惑を掛けられる。日本では新型コロナそのものよりも、自分自身が「世間の迷惑者」になってしまうことを恐れている人が多い。

「健全」とは言い難い生活を送らせてきてしまったが、今後はこのような対策は必要なのだろうか。

世界各国はコロナ前の日常を少しずつ取り戻しつつある。しかし、私たちがコロナ前の「日常」を取り戻し、未来ある子どもたちを健やかに育てるためには、まず私たち大人が「常識」を取り戻す必要があるのかもしれない。

これに関して、井上正康教授は「子どもはじやれあつて遊び、ワイワイ喋りながら給食を食べ、様々な細菌やウイルスと触れ合いながら免疫力を鍛えていきます。この時期は適度な感染によって強い身体を作る大切な時期です。ところが今、子どもたちは消毒や黙食などの過剰な予防対策によって免疫力を鍛える機会を失っています。これでは子どもたちの免疫力が十分に鍛えられず、普通の風邪を引いただけでも重症化する可能性が高くなっています。」と警鐘を鳴らしている。

### マスクをしていても感染してしまう理由

コロナ禍以降、私たちはマスクやアクリル板などによりウイルスを徹底的に避けるようになったが、井上正康教授は次のように指摘する。「そもそもウイルスは、空気、水、食物、家の中や生活空間

この方法でバリアを張れば大丈夫のはず...

ウイルス近づいてくるな!

WITHウイルス(共存)

免疫力があるから大丈夫!

隙間などを簡単にすり抜けてしまいます。病院や介護施設ではマスクの着用率がほぼ100%ですが、クラスターが頻繁に発生しています。どんなにマスクや消毒等で感染予防しても感染する時はしてしまいます。人はウイルスと共に生きていくしかないのです。」

そもそもがウイルスに感染する宿命を受け入れてこそ、社会 WITH ウイルスであるにもかわらず、無菌状態や「ゼロコロナ」を目指し続ける、人との触れ合いや人間らしい生活を犠牲にしているのが、日本の現状と言えるかもしれない。

この分類が2類から3類相当(季節性インフルエンザと同格)へ格下げされれば、この問題はすぐに解消され、子どもたちに「過剰な感染予防」を強要する必要もなくなる。また、近所の病院で普通に診察を受けることができるようになり、医療崩壊も防ぐことができる。

教えて! 井上先生

マスクで気を付けることは何かありますか?

子どもが日頃から他人の表情を見て育つことは、脳と心の発達に欠かせません。また、マスクで口元を隠し合うと、「笑顔」でのコミュニケーションができません。人格を形作る大切な時期にマスクによって表情を隠し合っているのは、喜怒哀楽の感情を学び、感受性を豊かにする訓練が十分にできず、相手の感情を理解する力が十分に育まれない可能性があります。

また、これからの季節は「熱中症」に注意してください。意外に知られていませんが、環境省と厚労省は、屋外でのマスクの着用について、人と十分な距離が取れる場合には、「熱中症を防ぐためにマスクをはずしましょう」と呼びかけています。※すでに東京都多摩市立の全小中学校で、「マスク着用をしない子ども」への配慮がなされるようになり、全国初のマスク自由化が実現しています。

\*上記内容のエビデンスはホームページ内に全て掲載しています。



すでに全国紙も含め、累計49紙発行部数1,747万部に意見広告を掲載

株式会社ゆうネットは、社会貢献活動の一環として、子どものマスクとワクチンに反対する意見広告を掲載する取り組みを行っています。(※特定の政治団体や宗教団体とは関係ありません) コロナ・ワクチン禍の最大の被害者は、無力な子どもたちです。子どもたちの健全な日常を取り戻すため、できることを一つずつ積み重ねていきます。

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 257,739,323円 (2021年11月30日～2022年4月19日10時30分時点)

【お願い】 この意見広告にご賛同下さる方は、一言コメントをお願いします。

https://jcovid.net/

ゆうネット 意見広告 検索

メール mail@dbank.jp